

妻と母親を助け出した男性、「ランボー」のようだとロサンゼルス・タイムズで紹介される

地震で被災しながらも、自ら妻と母親を捜し出し、さらに現在も他の行方不明者を捜索し続けている宮城県男性が「ランボー」のようだと海外で話題になっている。43歳のこの男性は、上はスウェット、下は迷彩パンツを履いた上からビニールで覆ってテープで固定するという出で立ち。履いているスニーカーはすでに泥だらけである。

津波が押し寄せて来たとき、自宅から数キロメートル離れた職場にいたそうだ。急いで自宅周辺へ戻ってみると、辺りはすでに水で溢れかえっていたという。家の中に取り残されているかもしれない妻のことが心配で居ても立っても居られず、救助隊の到着を待たずに、スキューバダイビング用の装備を手に入れ自ら水の中へと進んでいった。水面に浮かぶ瓦礫(がれき)は、水中を進む男性にとって大きな障害となった。ようやく自宅にたどり着き、妻を発見すると、安全な場所まで避難させた。「水は冷たいし、暗くてとても怖かったです。瓦礫をかき分けながら200メートルほど泳ぎ、やっとのことで妻を助け出すことができました」と、男性は当時の様子を語った。妻は救助したものの、その後母親の安否が確認できず、何度も市役所や避難所に捜しに行ったという。地震発生から4日後、母親を捜しに、水の中へ再び入っていった。姿が最後に確認されたと聞いた自宅近くにたどり着くと、周辺から取り残された家の2階で救助を待ち続けている母親を発見した。「母は独り取り残されて、パニックになっていました。発見した時は、本当に安心しました」と当時を振り返った。妻と母を助け出し安堵した男性だったが、これで終わりではなかった。その後もなお、1人でも多くの人を救助するため、水、懐中電灯、軍手、軍隊も採用する折り畳み式ナイフなどの装備を整えて瓦礫のなかを捜索しているという。



From: 宮脇
Sent: Friday, April 01, 2011 9:13 PM
To: 羽原
Subject: 【報告】東北のランボーに支援物資渡してきました。
社長
お疲れ様です。支援物資ありがとうございました！
届いたモノに、気持ちが入っていたようでとても助まりました！
ありがとうございました！
早速本日、石巻に物資が届きました！
その前に・・・
「東北のランボー」ってご存知でしょうか。
最近、海外で話題のランボーがいます。
http://blog.livedoor.jp/pfj_blog/archives/50609775.html



『東北のランボーと横山やすし師匠とセミのションベン作戦』の関係

上記のメールの通り、元テクアのアルバイトの宮脇君が今たまたま仙台に住んでいて、そしてこれもたまたまなのですが、宮脇君の取引先の業者さんが、今ロサンゼルスタイムズやフォーブスなどの海外メディアで話題になっている『東北のランボー』で、これもたまたまなのですが、テクアの鉄くず貯金が結構貯まっていたので、オレンジやリンゴやグレープフルーツに変えて、工業用マスクと一緒にして宮脇君へ送ったところ、宮脇君がその救援物資を東北のランボーにバトンタッチし、東北のランボーが道なき道を進み、一般家庭で心細く被災生活をされている家族に我々のフルーツを届けてくれているとのこと。

我々が仕事をして出た残材の鉄くずが、こんな偶然のサイクルで我々の仕事にプライドをもたらしてくれています。三方よしのサイクルが回っています！これからも迷わず行動あるのみです！

しかし東北のランボーさんは凄いですね。

何としても助け出す！今やらねばいつやる！わしがやらねばだれがやる！

そんな気迫にあふれています！！

今回の震災は阪神大震災の時に比べて現時点でボランティアの数が少ないと言われています。それは震災があつてすぐに流れた、ボランティア迷惑説のようなものが少なからず影響していると思います。『今行っても迷惑がかかるだけ』この正論が多くの心ある人たちの気持ちにくぎを刺しているのだと思います。確かに泊るところ、現地での食糧、燃料の確保の問題などが現実的にあるとは思いますが、そんなに大きな障害なのでしょうか？

誰かの役に立ちたいと強く感じている人がたくさんいて、それを待ちわびている人も現地にたくさんいる、国の組織では回りきれない、道も無くなってしまっている小さな民家への対応も求められている、こんな三方にとって望まれている状態でも、背後からつぶやかれる『今行っても迷惑がかかるだけ』という正論に日本人全体が負けているという現象なのではないかと思ひます。

たとえば、人前で手を挙げて発表しようとする、心の中で『今そんなこと発表して意味あるの？間違っていない？時間とって迷惑じゃない？』なんてつぶやきが聞こえてきて自重する日本人って自分も含めてすごく多いと思います。それと同じことが起こっているような気がします。

正論だから自重しているのではなく、自分の内部の声に負けて動けなくなっている、そんな状態ではないでしょうか？玄関の前で立ち尽くす営業マンのごとくに。

原子炉を冷却するためにとった自衛隊のヘリコプターによる放水作戦が、『セミのションベン作戦』と呼ばれ、世界の物笑いとなつたらしいですが、一緒になって笑ってはいけません。なぜなら自分が何か困った時に、万策尽きてそれでも何とかしようとする行動を起こす瞬間に脳がそのことを覚えていて、自分の声自分が嘲笑い、その声に負けて行動をやめてしまうからです。

人間の脳はそのように両刃の剣的に働かし、最新の脳科学に基づいて対応するとすれば、『セミのションベンか！うまいこというな。やっぱアカンカ！でもナイストライや！ほな次の手いこ！それもアカンカしたらまた次の手や！二の手三の手、孫の手！猫の手！何でも使わな！何が想定外じゃボケ！とことん行かんかい！』もし横山やすし師匠が生きていたらこれくらいな勢いで気合入れてくれるのではないかと思います。

こんな時には徹底的に自分を信じ、守り、励まし、エネルギーを高めて行動に変えていくことが求められているような気がします。多分、東北のランボーさんも『そんな危険な行為はやめて救助隊に任せてください。今みんなが感情に任せて勝手な行為をされても困ります』といったような正論をたくさん背中に浴びたと思います。しかし自分の軸が揺るぐことなく勇気ある行動に出た。その最初の一步が出せるか？出せないか？日本人のだれもが内心抱えているウイークポイントではないでしょうか？

～今やらねばいつやる わしがやらねば だれがやる～

日本中でそんなつぶやきが増えてきているような気がします。

出会いと気づきに感謝！ 羽原篤史

